

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月27日(木)

《一番望むことを勇気を持って願う祈り》

今日読まれた福音(マルコ 10・46 52)は、結構感動的な物語だと思います。

私たちがいくら幅広い理解力を持っていても、目の見えない人が感じている傷みの100分の1も分からないと思います。ただ、憐れみを感じ、助けてあげたい気持ちになるくらいでしょう。もし私たちが、目の見えない状態で一生を送るとしたら、その中でぶつかる難しさ、傷み、乗り越えなければならないことは、とてもたくさんあると思います。そういうことを考えてみると、自分が目の見えない人についてよく理解している、とは言えないでしょう。

今日の福音は、今とは全く違う時代に、道端で物乞いをしながら人々に助けを求める盲人の話でした。彼は、目は見えませんでした。耳は聞こえました。だから、「ダビデの子、イエスだ。」という声を聞いて、叫んだのです。周りの人々は「うるさい。黙りなさい。」と叱りつけます。しかしこの人は、ますます大きい声で、「ダビデの子、イエスよ。憐れんでください。」と叫びました。その声が聞こえたイエス様は、「彼を呼んでください。」と言い、「何を望むのか。」と尋ねました。もちろん彼は、自分の十字架だと思ふもの、一番の傷みの原因であると思ふものから救ってください、と願いました。そしてイエス様は、「あなたの信仰によって、あなたは救われた。」と答えられます。

この福音を読んで二つの点を少し黙想してみました。

一つは、私たちはいろいろなことを願い、望みます。しかしその願いにも、望みにも、やはり優先順位があると思います。何かを願う時には、本当に一番望んでいることを願ってほしいのです。その願いのために、皆様がどのくらいイエス様の前にひざまずいて、心をこめて祈ってきたのか、この盲人のような懇切な心をどのくらい見せてきたのか、考えてみたら、やはり足りなかったと思うのではないのでしょうか。

私たちは実際には、いろいろなことを、ある意味では無駄なことも願っています。しかし、本当に願うべきものはみんな同じなのだと思います。それは、「あなたが作ってくださった姿らしく、幸せに生きることができるように」という願いではないのでしょうか。

皆様、皆様が一番傷みを感じていることを願ってください。聞いてくださいます。知らん振りをするイエス様ではありません。その願いが本物か本物ではないか、識別しながら強く願えば、必ず聞いてくださいます。これが私たちの信仰です。もしこれを拒んでしまうと、信仰の生活をする理由はありません。なくなってしまう。だから、強く願ってください。本当に傷みを感じているところを願ってください。一番私たちにふさわしい道を許してください。その道によって救われることを私たちは信じなければなりません。

二番目です。信仰に必要な一つの条件があります。これがなくなったら私たちの信仰はあまり進ま

ない、進められない状態に陥る、という条件です。それは何でしょうか。私は『勇気』だと思います。皆様は、人に対して「勇気がある人だ」「勇敢な人だ」という評価をすることがありますね。さあ、カトリック的に、信仰的に見て、『勇気』というものは何でしょうか。中には、生まれつきあまり怖がらない人がいます。何かあるとすぐ喧嘩をして、自分の体をぶついたりします。そのような人々は、勇気があるとは言えません。感覚が足りないのです。「勇気がある」というのは、震える心を持っている人のことです。自分の弱さを感じながらも、「どうしてもこれをしなければならない」と思って出すのが本物の勇気です。

今日の福音の盲人を考えてみましょう。いろいろな人々から「うるさい」「うるさい」と言われましたね。しかも弱い立場だから、怖い思いもしたと思います。誰からも無視される立場でもありました。しかし彼は勇気を出しました。自分が救いを求める人が本物かどうか、本当に自分を救ってくれるのかも分からなかったと思います。ただいろいろなうわさで“不思議な力を持っている人”、と聞いただけで救いを求めたのです。勇気が必要だったと思います。もしかしたら、私たちはその勇気を出すことが出来なくて、いつまでも止まった状態にいるのではないのでしょうか。大切なのは、『勇気』です。信仰も勇気のある人がだんだん前に進んでいきます。勇気は震える心を前提します。その震える心を乗り越え、「これはやらなければならない」という良心の判断に従って動くのが勇気だと思います。

私たちの先祖の殉教者たちも怖かったと思います。「これで命が終わる」「家族と別れなければならない」という思いを全て感じたでしょう。そして逃げたかったでしょう。しかし勇気を出したのです。これが本当に意味のある勇気ではないのでしょうか。勇気という言葉は、怖がりを使う言葉です。怖がりである私たちがいつも意識的に出そうとするのが、勇気であることを今日の福音を通して考えてみましょう。

ありがとうございました。